

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム あらた 1F	評価実施年月日	平成 21年 7月 24日
評価実施構成員氏名	田中 野杉 齊藤 堀籠 宍戸 竹中 長瀬		
記録者氏名	田中	記録年月日	平成 21年 7月 31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	GH理念として安心と尊厳のある生活、個人の気持ちや考えを職員が援助を行い、その人らしく生活できるケアを実施している		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	業務に入る前に理念の唱和を行い、職員一同で意識の統一を図り、介護ミーティングやショートカンファレンス時に理念を振り返り、話し合い実践に向け取り組んでいる		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	定期的に運営推進委員会を実施し、事業主が町内会の役員を努めており、町内会の会合などでGHの取り組みを理解して頂けるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	玄関周りに植木や季節を楽しめるような花鉢の設置や野菜の栽培をしたり、入居者様と散歩へ出かけた時など顔を合わせた時に挨拶をし、近隣の方々も気軽に訪問されたり、除雪作業を手伝って下さるなど日常のお付き合いが出来るように努めている		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の老人会、行事などには積極的に参加し、近隣の幼稚園児の訪問など地域の人々と交流を深めている		消火訓練の際、消火器訓練や救急救命の講習など参加を呼びかけ、参加して頂いて交流を深めている
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業主が町内の役員をしていることから、役員などで数回地域の高齢者宅を訪問し、暮らしの状況を訪ねている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の発言を受け止め、意見・不満・苦情には速やかに管理者・職員で検討している		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度入居者便りを発行し、GHでの生活状況・健康状態を直近の写真を添付してご家族様に送付しており、特変時にはその都度、ご家族様へ連絡している。金銭管理は個々に出納帳で管理し、便りと一緒に送付したりご家族様の面会時に確認して頂いている		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関前に意見箱を設置し、意見を寄せて頂けるよう提示している。ご家族様面会時に声かけを行い、意見や要望を伺っている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務内での会話から意見や提案を取り入れ、朝礼や介護ミーティング内での意見交換や個人面談を行い、反映させている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ゆとりのある人員配置ができるよう勤務調整を行っている。行事時は日程や人員確保の調整を早めに行ったり、緊急時は都度職員の協力を得てシフト調整をしている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	都合により退職者がある場合、事前に採用し引き継ぎなどに時間をかけ、入居者様が不安を感じないように配慮している		職員の採用が内定した時点で当ホームの雰囲気を感じながら入居者とコミュニケーションを深めて頂くために事前に時間を取り、交流を図ってもらう配慮をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修を促し、学べる機会を設けている。職員の学んだことをまとめた報告書や資料を休憩室に掲示したり、介護ミーティングで感想を発表するなど情報の共有を図っている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修会に参加し、介護支援に関わる多様な情報をグループワークを通じて交流を深め、質の向上に取り組んでいる</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年2回全員参加の親睦会を開き、交流を深めたり、個々の悩みや疲れを日々の会話の中から汲み取り、相談・早期解決や働きやすい職場・環境づくりを心掛けている</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各専門職の資格取得に向け、講習に参加できるよう配慮し、各自がスキルアップを意識して働ける環境づくりに努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期アセスメントに重点をおき、本人を交えて説明したり、希望を確認し、日々の会話から求めていることを把握し、受け止めるよう心掛けている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談頂いた時点より当ホームの雰囲気などを感じて頂けるよう見学を勧めたり、十分に話し合う機会を設け、受け止める努力をしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期アセスメントを重点におき、必要とされているサービス内容をしっかり見極め、わかりやすく適切なサービスの説明を心掛けている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り、ご本人様とご家族様に当ホームを見学して頂いたり、ご本人様の生活習慣など多くの情報をご家族様より伺い、馴染みの環境づくりのための話し合いと工夫を行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の生活の中でコミュニケーションの時間を重点におき、些細なことでも感情表現があった場合は一緒に共感し、得意なことの手伝いや方法を教えてもらい、支えあいや寄り添う関係をつくっている		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の日々の様子など情報の共有に努め、面会時職員も会話に加わりながら一緒にご本人様を支援していく関係づくりをしている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事への参加を呼びかけたり、面会時にはご本人様とご家族様が落ち着いて過ごせるよう配慮し、より良い関係づくりに努めている		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望に合わせて外出の機会をつくり、理美容室や商店への買い物、自宅の様子を見に行くなど関係を継続する支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係が仲良く保てるように関係性をしっかり理解し、ホールなど共有スペースで過ごす時間をつくるなど、職員が間に入って関係性を築いていく配慮をしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	断ち切らない関係を大切に、退居後もご本人様やご家族様より相談・連絡などあった時は対応している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が図れる方はご本人様の希望を取り入れ、困難な場合はご家族様の希望を尊重しながらADLやQOLを把握し検討している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントに重点をおき、病状なども病院・担当医から情報を提供して頂いたり、入居前や入居後もご家族様や面会者より情報を聞いたり、ご本人様との会話の中で新たな情報の把握をし、日々努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人様とのコミュニケーションを基本に、職員同士の申し送りを密にし生活パターンや体調の把握をし、必要に応じてカンファレンスを実施して全職員で努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様・ご家族様の思いや生活状況を把握し、毎日の生活の中で継続して支援が可能か、また職員の気づきやアイデアを取り入れ、ケアプランの作成をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的モニタリングや評価を実施し、目標や援助内容の見直し・継続の判断、また変化に伴い都度カンファレンスを実施し、検討した内容を基に介護計画の見直しを行っている		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルに1日の様子を細かく記録したり、個別の日常チェック表や職員間での連絡ノートを活用し情報の共有や実践・経過の観察を行い、介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人様やご家族様の意向により通院・リハビリ、その他の外出支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内の民生委員・市役所の退職者、町内役員・ボランティアなどと常に情報交換を行い、協力を得ながら支援している		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性に応じて、福祉用具が必要な場合は介護ショップへ相談・助言を頂いたり、社会福祉協議会よりボランティア団体を紹介して頂き、催しなどを楽しんでもらえるように支援している		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ相談・助言を頂いている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人様・ご家族様の希望を確認しながら、状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。特変なければ、2～4週に1回の定期受診や往診の支援を行っている</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医へ状態の変化を報告し、相談・助言を受けている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており、健康管理や状態変化時に応じた支援を行っている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には医療機関と連携し、ご家族様とも現状の確認を密に行い、お見舞いや病院への訪問、電話などで情報交換や確認に努めている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期に向けた当ホームの方針をご家族様へ説明している。状況に応じてかかりつけ医よりご家族様と職員を交えて話をする機会を設けている</p>		<p>医療体制の強化を図り、より具体的に話し合いをする機会をつくってきたい</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した入居者様の病状や言動・行動を把握し、看取り方などで出来ること・出来ないことを見極めて支援している。出来ないことに関してかかりつけ医に相談し、必要に応じてカンファレンスを実施している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当ホームへ入居する前の生活内容を把握し、集団生活ながらも個人個人に合った生活ができるよう支援、また在宅時に使用していた家具や備品類を使用して頂き、1日も早く生活に慣れて頂けるような支援をしている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様一人ひとりを尊重し、個人の尊厳やプライバシーを大切にしながら、状況に応じた対応や言葉かけを心掛けている</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかりやすくはっきり説明を行い、可能な選択肢より自己決定して頂けるよう支援、また重度認知症の入居者様に対しても表情の変化や話を傾聴し支援している</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様一人ひとり、それぞれのペースで生活していけるよう、ご本人様の希望を確認し、その希望に添って1日を過ごせるように支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人様の希望に添った整容を支援し、長年利用している馴染みの理美容室への送迎や希望時には訪問理容の予約の手配など行っている。ご本人様の希望で職員が髪染めやカットなどを行う場合もある</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の健康状態(咀嚼や嚥下、好みなど)に合わせた調理方法や個人の能力に合わせた食材の下ごしらえ、得意なメニューの味付け、盛り合わせ、またオヤツ作りなど職員と一緒に楽しみながら行っている</p>		<p>食事を楽しくおいしく味わえることが健康で元気に生活できる糧であることを理解し、今後も更なる工夫をしていきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食べすぎに配慮しながら差し入れや本人の購入した物を適度に楽しめるように支援している。買い物希望時は職員と一緒に出かけ、好きな物を購入したり、職員代理で買い物を行っている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援し、夜間オムツ使用している方も日中はリハビリパンツや下着にパットを使用し個々の排泄パターンの把握に努め、気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は月・火・木・金の午前・午後で、本人の希望に合わせて週2回入れるように支援している。希望聞かれた時はいつでも入れるような体制を取っている。行事や受診により変更ある場合は都度説明を行い、理解して頂いている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や体調を考慮し、日々の生活の中で状況に応じて休息が取れるよう支援している。昼夜の区別をつけるよう、日中は散歩やレクリエーションを通じ、気持ちよく睡眠が取れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や能力に合わせた軽作業を促したり、得意分野のお手伝いや趣味を活かした活動などをして頂いている。入居者様より教えてもらう事も多く、コミュニケーションを図りながら役割や気晴らしとなるように支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	多額の金銭や通帳などはご本人様とご家族様に了承を頂き、ご家族様で管理して頂くかGHで管理している。日頃外出や散歩時に近所のスーパーなどの買い物の際は、お金が使えるように支援、また少額を自分で所持・管理し買い物されている方もいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に応じて買い物、ホームの畑仕事や散歩、近所の喫茶店までコーヒーを飲みに行くなど支援を行っている		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事を1ヶ月に1回は起案し、いちご狩りや空港見学、回転寿司やお花見に出かけている。ご家族様やご友人の支援を頂き外出や外泊などもされている		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望により居室に電話を引いたり個人で携帯電話を持っている方もいる。他ホームの電話を通じ連絡を取ったり、ご家族様やご友人などとの交流がいつでも図れるよう、保てるように支援している		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できる環境を整えており、ホールや自室など好きな場所で自由に過ごして頂いている		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員で身体拘束が禁止行為であることを認識し、資料文献を参照しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中施錠せず自由に外へ出られる環境であるが、危険を伴う可能性もあるため、外出時は必ず職員が同行し見守っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら昼夜を通し安全確認している。万が一の場合に備え「所在不明検索マニュアル」を職員間で共有している		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物は物品庫で保管・鎖で施錠し保管や在庫確認している。個人の物品に関しては個々の認知力の状況に合わせて検討・判断している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりのADLや認知力の把握に努め、予測される危険や事故を未然に防ぐよう努力している。事故報告書やヒヤリハットの定期的な集計を行い、原因・対策・経過を全職員で検討し理解を深め、防止に取り組んでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備えたマニュアルを作成し、迅速に対応できるようミーティングやカンファレンスなどで日常的に話し合い確認している。年1回は消防職員による一般救急講習を実施している		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年2回実施しており、5月28日消火器訓練や6月19日非常設備の使用説明を受けている		日中だけでなく夜間帯の災害に対応できるよう、訓練を計画している
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様と普段から関係づくりに努めており、面会など機会ある事に現状を理解して頂き、今後起こり得るリスクについて説明し対応策についても話し合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックや顔色、食事摂取量などで体調の観察を行い、変化ある時は受診や住診にて迅速に対応している。ストレスによる体調不良もあるため、日々コミュニケーションの中から不満・不安を感じ取り、把握に努めている		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの内服の内容や用量を把握し確実に内服できるよう支援している。頓服や短期間の内服、服薬内容変更の場合は経過観察し、体調の変化の有無を注視、申し送りや連絡ノートを活用し服薬状況の把握に努めている		服薬ミスは重大な事故と捉えておりなぜ間違えたのかを原因把握や検証をし、改善策を職員間で話し合い、内服管理の徹底に努めている
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	バランスの良い食事提供や便秘傾向の方にはヤクルトや乳製品・野菜ジュースの飲水など排便リズムを習慣づけるため定時の排泄誘導に取り組んでいる。下剤使用に対しても医師や看護師に報告し、相談しながら調整している		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きは一人ひとりに応じて支援している。歯科衛生士により口腔ケアや指導を受け、ご本人様に合った歯ブラシやスポンジ・ガーゼ使用し保清に努めている		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は毎日チェック・記録し情報を共有している。嚥下力低下に伴い、提供方法を考慮しながら支援したり、少しでも多く水分摂取して頂けるよう本人の好む飲み物を用意するなど工夫している		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアル作成、感染症の流行に随時対応できるように努めている。マスクの着用やうがい・手洗いの徹底、インフルエンザの予防接種を受けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>消費期限の確認、毎夕食後まな板や布巾の除菌を実施、その他毎食後の検食を保管し有事の際、原因究明できるようにしている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>今年も野菜や花の苗植えや種まきを入居者様と一緒にいき、水やりや草取り、収穫と一緒に楽しみながら行っている。近所のお子さんが玄関先に顔を出すこともあったり、玄関先での日光浴時にご近所の方が声をかけて下さっている</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>限られた空間ではあるが入居者様にとって安らげる場所・安心できる空間づくりを心掛けている。季節や行事に合わせて室内の装飾を楽しんで頂いている</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールにはソファを置いてくつろげる環境にし、それぞれ落ち着いて過ごせる場所でくつろいでいる</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>在宅で使用していた家具や装飾品などを持参して頂き、ご本人様と一緒に過ごしやすい環境づくりを心掛けている。またご家族様にも入居者様が快適に暮らせるよう備品の用意などの協力を得ている</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎朝の掃除やリネン交換、天気の良い日には換気を行い、湿度・温度の把握をし、入居者様の様子を確認しながら調整している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 コミュニケーションの時間を多く持つことで、個々の入居者様の意見・要望を把握し、毎日安心・満足感のある生活の支援を心掛けている  
 中庭には花や野菜の苗を植えて、入居者様・職員一緒に成長や収穫の喜びを味わいながら作業を実施している  
 年数回、幼稚園児やボランティアなどを招いて交流を図っている

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム あらた 2F	評価実施年月日	平成 21年 7月 24日
評価実施構成員氏名	石川 大橋 清水 佐藤 田中(美) 河村 吉田 平田		
記録者氏名	石川	記録年月日	平成 21年 7月 31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	GH理念として安心と尊厳のある生活、個人の気持ちや考えを職員が援助を行い、その人らしく生活できるケアを実施している		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	業務に入る前に理念の唱和を行い、職員一同で意識の統一を図り、介護ミーティングやショートカンファレンス時に理念を振り返り、話し合い実践に向け取り組んでいる		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	定期的に運営推進委員会を実施し、事業主が町内会の役員を努めており、町内会の会合などでGHの取り組みを理解して頂けるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	玄関周りに植木や季節を楽しめるような花鉢の設置や野菜の栽培をしたり、入居者様と散歩へ出かけた時など顔を合わせた時に挨拶をし、近隣の方々も気軽に訪問されたり、除雪作業を手伝って下さるなど日常のお付き合いが出来るように努めている		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の老人会、行事などには積極的に参加し、近隣の幼稚園児の訪問など地域の人々と交流を深めている		消火訓練の際、消火器訓練や救急救命の講習など参加を呼びかけ、参加して頂いて交流を深めている
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業主が町内の役員をしていることから、役員などで数回地域の高齢者宅を訪問し、暮らしの状況を訪ねている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価の意義について全職員で理解を深め、評価に取り組み、前年度の評価内容を活かし、都度改善点を話し合っている</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>定期的に開催し、当GHでの取り組みなどの理解を深めて頂けるよう努力している</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者と質問事項を通じて指導・助言を受けるとともに、直接市担当者が当ホームに来られるなどサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>司法書士より権利擁護に関する知識の指導を受けるほか、その都度状況・判断に応じたアドバイスを受けている。現在1名成年後見制度利用に向けて準備をしている</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修資料の回覧、介護ミーティングやカンファレンス時に話し合い、常に注意・意識をしながら介護を行っている</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居者様・ご家族様と事前面談を行い、運営説明や入居に関する一切を事前に説明し、同意を得ている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の発言を受け止め、意見・不満・苦情には速やかに管理者・職員で検討している		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に1度入居者便りを発行し、GHでの生活状況・健康状態を直近の写真を添付してご家族様に送付しており、特変時にはその都度、ご家族様へ連絡している。金銭管理は個々に出納帳で管理し、便りと一緒に送付したりご家族様の面会時に確認して頂いている		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関前に意見箱を設置し、意見を寄せて頂けるよう提示している。ご家族様面会時に声かけを行い、意見や要望を伺っている		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務内での会話から意見や提案を取り入れ、朝礼や介護ミーティング内での意見交換や個人面談を行い、反映させている		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ゆとりのある人員配置ができるよう勤務調整を行っている。行事時は日程や人員確保の調整を早めに行ったり、緊急時は都度職員の協力を得てシフト調整をしている		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	都合により退職者がある場合、事前に採用し引き継ぎなどに時間をかけ、入居者様が不安を感じないように配慮している		職員の採用が内定した時点で当ホームの雰囲気を感じながら入居者とコミュニケーションを深めて頂くために事前に時間を取り、交流を図ってもらう配慮をしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修を促し、学べる機会を設けている。職員の学んだことをまとめた報告書や資料を休憩室に掲示したり、介護ミーティングで感想を発表するなど情報の共有を図っている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修会に参加し、介護支援に関わる多様な情報をグループワークを通じて交流を深め、質の向上に取り組んでいる</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年2回全員参加の親睦会を開き、交流を深めたり、個々の悩みや疲れを日々の会話の中から汲み取り、相談・早期解決や働きやすい職場・環境づくりを心掛けている</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>各専門職の資格取得に向け、講習に参加できるよう配慮し、各自がスキルアップを意識して働ける環境づくりに努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>初期アセスメントに重点をおき、本人を交えて説明したり、希望を確認し、日々の会話から求めていることを把握し、受け止めるよう心掛けている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談頂いた時点より当ホームの雰囲気などを感じて頂けるよう見学を勧めたり、十分に話し合う機会を設け、受け止める努力をしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期アセスメントを重点におき、必要とされているサービス内容をしっかり見極め、わかりやすく適切なサービスの説明を心掛けている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り、ご本人様とご家族様に当ホームを見学して頂いたり、ご本人様の生活習慣など多くの情報をご家族様より伺い、馴染みの環境づくりのための話し合いと工夫を行っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の生活の中でコミュニケーションの時間を重点におき、些細なことでも感情表現があった場合は一緒に共感し、得意なことの手伝いや方法を教えてもらい、支えあいや寄り添う関係をつくっている		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人様の日々の様子など情報の共有に努め、面会時職員も会話に加わりながら一緒にご本人様を支援していく関係づくりをしている		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事への参加を呼びかけたり、面会時にはご本人様とご家族様が落ち着いて過ごせるよう配慮し、より良い関係づくりに努めている		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	希望に合わせて外出の機会をつくり、理美容室や商店への買い物、自宅の様子を見に行くなど関係を継続する支援をしている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係が仲良く保てるように関係性をしっかり理解し、ホールなど共有スペースで過ごす時間をつくるなど、職員が間に入って関係性を築いていく配慮をしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	断ち切らない関係を大切に、退居後もご本人様やご家族様より相談・連絡などあった時は対応している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が図れる方はご本人様の希望を取り入れ、困難な場合はご家族様の希望を尊重しながらADLやQOLを把握し検討している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントに重点をおき、病状なども病院・担当医から情報を提供して頂いたり、入居前や入居後もご家族様や面会者より情報を聞いたり、ご本人様との会話の中で新たな情報の把握をし、日々努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人様とのコミュニケーションを基本に、職員同士の申し送りを密にし生活パターンや体調の把握をし、必要に応じてカンファレンスを実施して全職員で努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様・ご家族様の思いや生活状況を把握し、毎日の生活の中で継続して支援が可能か、また職員の気づきやアイデアを取り入れ、ケアプランの作成をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的モニタリングや評価を実施し、目標や援助内容の見直し・継続の判断、また変化に伴い都度カンファレンスを実施し、検討した内容を基に介護計画の見直しを行っている		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルに1日の様子を細かく記録したり、個別の日常チェック表や職員間での連絡ノートを活用し情報の共有や実践・経過の観察を行い、介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人様やご家族様の意向により通院・リハビリ、その他の外出支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内の民生委員・市役所の退職者、町内役員・ボランティアなどと常に情報交換を行い、協力を得ながら支援している		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要性に応じて、福祉用具が必要な場合は介護ショップへ相談・助言を頂いたり、社会福祉協議会よりボランティア団体を紹介して頂き、催しなどを楽しんでもらえるように支援している		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ相談・助言を頂いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご本人様・ご家族様の希望を確認しながら、状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。特変なければ、2～4週に1回の定期受診や往診の支援を行っている</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医へ状態の変化を報告し、相談・助言を受けている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置しており、健康管理や状態変化時に応じた支援を行っている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には医療機関と連携し、ご家族様とも現状の確認を密に行い、お見舞いや病院への訪問、電話などで情報交換や確認に努めている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期に向けた当ホームの方針をご家族様へ説明している。状況に応じてかかりつけ医よりご家族様と職員を交えて話をする機会を設けている</p>		<p>医療体制の強化を図り、より具体的に話し合いをする機会をつくってきたい</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した入居者様の病状や言動・行動を把握し、看取り方などで出来ること・出来ないことを見極めて支援している。出来ないことに関してかかりつけ医に相談し、必要に応じてカンファレンスを実施している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当ホームへ入居する前の生活内容を把握し、集団生活ながらも個人個人に合った生活ができるよう支援、また在宅時に使用していた家具や備品類を使用して頂き、1日も早く生活に慣れて頂けるような支援をしている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様一人ひとりを尊重し、個人の尊厳やプライバシーを大切にしながら、状況に応じた対応や言葉かけを心掛けている</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかりやすくはっきり説明を行い、可能な選択肢より自己決定して頂けるよう支援、また重度認知症の入居者様に対しても表情の変化や話を傾聴し支援している</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様一人ひとり、それぞれのペースで生活していけるよう、ご本人様の希望を確認し、その希望に添って1日を過ごせるように支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人様の希望に添った整容を支援し、長年利用している馴染みの理美容室への送迎や希望時には訪問理容の予約の手配など行っている。ご本人様の希望で職員が髪染めやカットなどを行う場合もある</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の健康状態(咀嚼や嚥下、好みなど)に合わせた調理方法や個人の能力に合わせた食材の下ごしらえ、得意なメニューの味付け、盛り合わせ、またオヤツ作りなど職員と一緒に楽しみながら行っている</p>		<p>食事を楽しくおいしく味わえることが健康で元気に生活できる糧であることを理解し、今後も更なる工夫をしていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食べすぎに配慮しながら差し入れや本人の購入した物を適度に楽しめるように支援している。買い物希望時は職員と一緒に出かけ、好きな物を購入したり、職員代理で買い物を行っている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援し、夜間オムツ使用している方も日中はリハビリパンツや下着にパットを使用し個々の排泄パターンの把握に努め、気持ちよく排泄できるよう支援している		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は月・火・木・金の午前・午後で、本人の希望に合わせて週2回入れるように支援している。希望聞かれた時はいつでも入れるような体制を取っている。行事や受診により変更ある場合は都度説明を行い、理解して頂いている		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活習慣や体調を考慮し、日々の生活の中で状況に応じて休息が取れるよう支援している。昼夜の区別をつけるよう、日中は散歩やレクリエーションを通じ、気持ちよく睡眠が取れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や能力に合わせた軽作業を促したり、得意分野のお手伝いや趣味を活かした活動などをして頂いている。入居者様より教えてもらう事も多く、コミュニケーションを図りながら役割や気晴らしとなるように支援している		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	多額の金銭や通帳などはご本人様とご家族様に了承を頂き、ご家族様で管理して頂くかGHで管理している。日頃外出や散歩時に近所のスーパーなどの買い物の際は、お金が使えるように支援、また少額を自分で所持・管理し買い物されている方もいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	一人ひとりの希望に応じて買い物、ホームの畑仕事や散歩、近所の喫茶店までコーヒーを飲みに行くなど支援を行っている		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	外出行事を1ヶ月に1回は起案し、いちご狩りや空港見学、回転寿司やお花見に出かけている。ご家族様やご友人の支援を頂き外出や外泊などもされている		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	希望により居室に電話を引いたり個人で携帯電話を持っている方もいる。他ホームの電話を通じ連絡を取ったり、ご家族様やご友人などとの交流がいつでも図れるよう、保てるように支援している		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	いつでも気軽に訪問できる環境を整えており、ホールや自室など好きな場所で自由に過ごして頂いている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	全職員で身体拘束が禁止行為であることを認識し、資料文献を参照しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	日中施錠せず自由に外へ出られる環境であるが、危険を伴う可能性もあるため、外出時は必ず職員が同行し見守っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら昼夜を通し安全確認している。万が一の場合に備え「所在不明搜索マニュアル」を職員間で共有している		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物は物品庫で保管・鎖で施錠し保管や在庫確認している。個人の物品に関しては個々の認知力の状況に合わせて検討・判断している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりのADLや認知力の把握に努め、予測される危険や事故を未然に防ぐよう努力している。事故報告書やヒヤリハットの定期的な集計を行い、原因・対策・経過を全職員で検討し理解を深め、防止に取り組んでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備えたマニュアルを作成し、迅速に対応できるようミーティングやカンファレンスなどで日常的に話し合い確認している。年1回は消防職員による一般救急講習を実施している		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年2回実施しており、5月28日消火器訓練や6月19日非常設備の使用説明を受けている		日中だけでなく夜間帯の災害に対応できるよう、訓練を計画している
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様と普段から関係づくりに努めており、面会など機会ある事に現状を理解して頂き、今後起こり得るリスクについて説明し対応策についても話し合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>服薬ミスは重大な事故と捉えておりなぜ間違えたのかを原因把握や検証をし、改善策を職員間で話し合い、内服管理の徹底に努めている</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症マニュアル作成、感染症の流行に随時対応できるように努めている。マスクの着用やうがい・手洗いの徹底、インフルエンザの予防接種を受けている</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>79 食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>消費期限の確認、毎夕食後まな板や布巾の除菌を実施、その他毎食後の検食を保管し有事の際、原因究明できるようにしている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>今年も野菜や花の苗植えや種まきを入居者様と一緒にいき、水やりや草取り、収穫と一緒に楽しみながら行っている。近所のお子さんが玄関先に顔を出すこともあったり、玄関先での日光浴時にご近所の方が声をかけて下さっている</p>		
<p>81 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>限られた空間ではあるが入居者様にとって安らげる場所・安心できる空間づくりを心掛けている。季節や行事に合わせて室内の装飾を楽しんで頂いている</p>		
<p>82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホールにはソファを置いてくつろげる環境にし、それぞれ落ち着いて過ごせる場所でくつろいでいる</p>		
<p>83 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>在宅で使用していた家具や装飾品などを持参して頂き、ご本人様と一緒に過ごしやすい環境づくりを心掛けている。またご家族様にも入居者様が快適に暮らせるよう備品の用意などの協力を得ている</p>		
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎朝の掃除やリネン交換、天気の良い日には換気を行い、湿度・温度の把握をし、入居者様の様子を確認しながら調整している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 コミュニケーションの時間を多く持つことで、個々の入居者様の意見・要望を把握し、毎日安心・満足感のある生活の支援を心掛けている  
 中庭には花や野菜の苗を植えて、入居者様・職員一緒に成長や収穫の喜びを味わいながら作業を実施している  
 年数回、幼稚園児やボランティアなどを招いて交流を図っている